

連載・海外便り（その3）
カンボジアの食品・包装産業事情
食品流通アドバイザー
田中技術士事務所 代表 田中 好雄

内戦の傷跡が残るカンボジアはインフラ整備が最優先されるべきであり、国を挙げて産業育成に取り組んでいる。また、近隣諸国からの投資も盛んであり、ビール、ミネラルウォーター、魚醤、冷凍エビなどの工場がある。

① ミネラルウォーター

ミネラルウォーターの包装に必要な PET ボトルをタイ、ベトナムから輸入し、また国産品を相場により使い分けている。国内に 30 社ほどのボトラーがあり競争が激しい商品であるが、庶民の生活に溶け込んでおりその需要は大きい。近郊の河川から用水を引き込み、これをイオン交換処理後ボトル詰、出荷している。道路事情が悪く、輸送手段がないなどの理由から、地方への拡販がなかなか思うようにいかない。賞味期限は 1 年間で回収した PET ボトルは再生工場のあるベトナムへ送っている。

② 魚醤

魚醤はカンボジアでは食卓に欠かせない調味料であり、プノンペンでだけでも 10 社を超える業者があり競争が激しい。250cc ガラス瓶をタイから輸入し用水、岩塩、川魚を原料として熟成させる。日本の醤油を思わせるような独特な風味を持つ。衛生面、品質面に課題を抱え、包装容器であるガラス瓶の入手に苦勞しており、開発途上国共通の悩みを抱える。

③ 冷凍エビ(ブラックタイガー)

ブラックタイガーの養殖は台湾で始まり、タイ、中国、インドネシア、ベトナムからインドへ広がりを見せている。台湾、香港などの外資による投資が盛んであるが、原料の供給、相場の変動、電気・重油などの高騰があり事業としては今 1 歩というところである。輸出先は香港、台湾などのホテル、レストランで、腸炎ビブリオなどの食中毒防止と製品の規格基準の徹底が当面の課題である。天然の国産エビを使用し漁師が捕獲した原料エビを清水で洗浄してから氷冷する。脱頭、剥殻、去腸後大きさをそろえるための選別し、格付品の整列、包装・急速冷凍し、ダンボール梱包して出荷する。手作業による人海戦術であるが規格基準が確りしている。包装材料の入手が困難であり、ダンボールを台湾、低密度ポリエチレンをタイ、ベトナム、ガムテープをタイから輸入している。

④ ビール、炭酸飲料

清涼飲料水の需要が大きいため、シンガポール、タイなどの近隣諸国が積極的な投資をして操業がなされ、生産・品質管理はかなり高いレベルにある。人件費が低いことが魅力である。シンガポール、タイ、ミャンマー、ベトナムなどに同系列の工場があり、外資系企業の典型的な例が国内に何社かみられる。大手の飲料メーカーのライセンスをもち国内、海外(米国、フランス、マレーシア、日本)への輸出をしている。ここでも原料、副原料、包装

材料（缶、ガラスビン、PET ボトル）、包装機械・製造設備などすべてが輸入品でありそれ
ら
の原価償却、固定費、比例費の占める割合の多さには驚かされる。 □



カンボジアのビール工場の指導